

知るは楽しみなり

自然と環境コース卒業 中馬 能行

1980年代、「クイズ面白ゼミナール」というテレビ番組がありました。司会の鈴木健ニアナの抜群の記憶力（台本なし）と旺盛な知識でもって、7年間続いた番組です。

この人のオープニングの決まり文句が「知るは楽しみなり」でした。その博識はどこから来るのかと問われて、彼は「インターネットからなんでも広く知ることはできるけど薄いんです。詳しく知るためには、本なんですよ。厳しい視聴者もいらっしゃいますからね。」と読書の必要性を話していました。

読書といえば、放送大学宮崎市分室に、時松さんという在学生からのご厚意で、何百冊もの本が寄贈してあります。何々文庫といえば、結構その人の好みというか個性が出るものですが、ここの書棚は大衆小説から随筆、評論、紀行文、宗教論、ハウツー物まで百花繚乱、時間軸にしても古代から未来まで選り取り見取りです。

宮崎市分室は、宮崎県庁から東へ200m、宮崎市教育情報研修センターの中にあります。冷暖房完備で、全科目の再生機器が10数台並んでいます。とにかく静かです。というより「静謐」ですね。今年の猛暑は、ここで涼まれてはいかがでしょうか。

こういう事を言うと、「使用目的が違う」とチコちゃんに叱られそうですが、まあ大目に見てください。

読書が苦手という人には、宮崎市立図書館のCD文庫がお勧めです。こちらは、もっとポピュラーで、ミステリー、時代劇、私小説の類です。最近、印象に残ったものは直木賞作家、乃南アサの「しゃぼん玉」、6本7時間の長尺です。

映画では「落人伝説の残る宮崎県椎葉村を舞台に繰り広げられる人間再生の物語」と紹介されていました。佐土原図書館にも置いてあります。再生機器さえあれば、いつでも、どこでも聞けますから結構重宝しています。

最後に、冒頭の鈴木さん、「あなたにとって知るとは？」と問われたときに「自分は何も知らない人間だったという事を知る事ですね。これをやらないと次へ進めないのです。」

